

## 用水の調整池

瀬戸内地域では古くからため池がつくられてきました。しかし、もともと雨が少ないので、慢性的な水不足のためたびたび干害に見舞われてきました。このため、ダムを水源として用水事業が行われ、既存のため池は導水した水を貯めて下流に配水する調整池として使われています。香川県観音寺市の姥ヶ懐池と愛媛県西条市の小松大谷池を取り上げます。

### ■姥ヶ懐池（香川県観音寺市）

豊浜町（現観音寺市）の姥ヶ懐池（うばがふところいけ）の起原は定かではありませんが、下流地域の新田開発に伴い漸次増築され、寛永年間 1630 年頃には一応ため池としての形態が整えられていたと推定されています。その後も修築されてかんがい用水を供給してきましたが、水不足は根本的には解決せず、たびたび干害に見舞われてきました。そこで、早明浦ダムで開発した水を池田ダムで取水して香川県に導水する香川用水事業が行われ、財田町（現三豊市）の東西分水工から姥ヶ懐池に至る約 13km の西部幹線水路が昭和 51 年に完成しました。香川用水の水は姥ヶ懐池に貯められて、ここから各ため池に配水され、豊浜町内の田約 270ha と畑約 190ha が水の心配をしなくてすむようになりました。<新修豊浜町誌編さん委員会編「新修豊浜町誌」1995 年など>



### ■小松大谷池（愛媛県西条市）

加茂川と中山川の狭間にある河川の恩恵を受けられない小松地区（現西条市小松町）では、明治時代からため池の築造が計画されていましたが、近隣の村の反対に遭い実現できませんでした。交渉の結果、耕地整理組合が結成され、大正 3 年に小松大谷池の工事に着手し、大正 10 年に完成しました。これにより 100 町歩の水田用水が確保され、当時は県下第一の大池と言われました。しかし、その後もたびたび干ばつに見舞われたため、面河ダムを水源として道前平野と道後平野で利用する道前道後用水事業が行われ、道前道後農業水利事業は昭和 42 年に竣工しました。小松地区へは、中山川取水堰から道前右岸幹線水路を通じて導水され、小松大谷池を調整池として各地に配水されています。<小松町誌編さん委員会編「小松町誌」1992 年、門田恭一郎「愛媛の水をめぐる歴史」2006 年>

